

An Investigation into the Conjugations of the Italian Verbs in Boccaccio's *Il Filostrato*

Masahito Nishimura

Boccaccio's *Il Filostrato* is essential for studying Chaucer's *Troilus and Criseyde*. However, while reading this work, it was apparent that there are many verbs whose conjugations are different from those in contemporary Italian.

The purpose of this paper is to clarify the conjugations of the verbs used in *Il Filostrato*. First, the present author discusses the overall features of the Italian verbs that appear in this work from both morphologic and syntactic viewpoints. Second, the author deals with the verbs, *avere and essere*, and makes their special conjugations clear. Part of the conclusions in this paper are stated below.

1. *Il Filostrato* is a poetic work. Therefore, poetic rules affect the conjugations of the Italian verbs.
2. Boccaccio uses special conjugations if verbs are placed at the end of the line.
3. Different conjugations of *avere* and *essere* can be observed in the *future, imperfect, past historic, present subjunctive* and *present conditional* tenses.

ボッカッチョ *Il Filostrato* おける 動詞活用について

西村政人

序

ボッカッチョ *Il Filostrato* (以下 *Filostrato*) はチョーサー *Troilus and Criseyde* の研究には避けては通れない作品である。岡三郎氏による日本語訳も最近出版され、この作品を読むことが容易になった。しかし、この作品の語学的研究は不十分であり、原文で読む時には困難を感じる。その困難のひとつが動詞である。本論文は動詞に焦点をあて、作品に出現する動詞の活用について、現代イタリア語とは異なる活用形の全体像明らかにすることにある。

第1章 先行研究

本研究に関係する従来の研究について年代順に触れておく。

- (1) 秋山余思 (1964) 「『神曲』の脚韻に於ける語彙」(『イタリア学界誌』第13号, pp. 80 - 85)

脚韻の語彙についてダンテ独自の造語について論じたもの。

- (2) 西村政人 (1997) *A Concordance to Filostrato*.

文部省科学研究費による成果報告。*Filostrato* のコンコーダンス。

- (3) 西村政人 (1998) *A Rhyme Concordance to Il Filostrato*.

文部省科学研究費による成果報告。*Filostrato* の脚韻コンコーダンス。

- (4) 古浦敏生 (1999) 「ダンテ『神曲』における動詞研究 - 付録『神曲』に現れる不規則動詞・動詞難語句語辞典 -」

『神曲』に出現する動詞について、音韻論、形態論、統語論、意味論の観点から論じている。付録に現代イタリア語とは異なる活用をした動詞が示されている。

- (5) 岡三郎 (2004) 『フィロストラト』(国文社)

Filostrato の日本語訳である。

本論文では、古浦 (1999) を参考にしつつ、原文を読んだ筆者の経験も踏まえ、上記のコンコー

ダンスを利用して、作品に出現する動詞を調べ記述していく。

第2章 現代イタリア語の動詞体系

動詞はその不定詞現在の語尾によって3つに（第1変化動詞，第2変化動詞，第3変化動詞）分けられている。さらに叙法と時制については下のようになる¹。

法↓ 時制→	単純時制	複合時制
直説法	現在 半過去 遠過去 単純未来	近過去 大過去 先立過去 先立未来
命令法	現在 未来	
接続法	現在 半過去	過去 大過去
条件法	現在	過去
不定詞	現在	過去
分詞	現在 過去	

上記の表の中で問題となるのは、直説法現在、半過去、遠過去、単純未来、接続法現在、条件法現在である。筆者が作品を読んだ経験から、現代語では判断に苦しむ活用形が出現するのはこれらの時制であることがわかっている。次章で作品に出現した動詞を例に挙げ、その形態を論じる。最後に付録として動詞の一覧表を示すことにする。

第3章 音韻論の観点からの考察

(1) 語頭音消失

作品を読み進めると語頭音消失が生じた形が頻出する。例えば次例²を見られたい。

sovranza grazia se io la 'mpertrassi (2-31)

(そのことが可能ならば)

この語形は *i-* が消失した形であり、接続法半過去 1 人称単数である。現代イタリア語では母音接続が生じた場合は、補語人称代名詞の語末母音が消失するのが普通である。

(2) 語末音消失

次の例は不定詞語尾の *-e* が脱落した例である。

la qual convenmi abandonar piangendo, (4-99)

(ただ泣き濡れて、私が、思い切らねばならぬものなら。)

ここでは *abbandonare* となるべきところである。語によっては両方の形が現れる例もある。

in quel che son lasciali andar ne' venti; (5-32)

(それらが存在している風の中に放り出し給え。)

delle quai parte alla futura festa
debbono andare; allora sarò seco. (2-143)
(やがて近づく大祭に、出掛けることになっておりますから。)

第4章 統語論的考察

統語論の点から読み手を悩ませるのは、補語人称代名詞が前接されたり後接されたりする場合である。

Poi Pandaro abbracciò mille fiate
e basciallo altrettante, sì contento (2-81)
(パンダロを、何千回も抱きしめ、また同じ数だけキスをし、)

per atti già veduti, e per non farlo
tristo di ciò, di non dirne niente (7-83)
(この事を信用し、そして、この事について、彼を悲しませぬように、この事には、もう何も言わず、)

これらは前接の例で、それぞれ *basciallo* (*basciò+lo*)、*dirne* (*dire+ne*) となるところである。次は後接の例である。

sì lo splendor l'accende del tuo volto; (2-46)
(それ程まで、お前の容貌の輝きが、彼を燃え上がらせたのだ。)

che questo giorno aspettata l'abbiamo (7-12)
(今日、1日中、彼女を待っていたなんて。)

上の2番目の例文では行末に置かれている。次の例は *ne, si* が後接する例である。

Or ne son fuor, mercé n'abbia colui (1-24)
(ところで今や、私は、私以上に私に同情してくれるあの方)

che mille volte insieme s'abbracciaro (3-30)
(二人が、互いに、千回も、固く抱き合い、)

第5章 特殊な活用形

Filostrato に現れる動詞で、現代語とは異なる活用形を検討する。この章では *avere, essere* を取り上げる。

(1) *Avere*

A. *abbiam*

Avere の接続法現在 1 人称複数形 *abbiamo* の -o が脱落している。

e quel che noi abbiam di rimanente (4-145)

(僕たちがこの世に生きているのを)

次の例は直説法現在 1 人称複数である。

rapisse, onde abbiam ora cotal merto; (7-92)

(それで、今日、我々はその償いを、しているが)

B. *avea*, *aveano*, *avien*, *avieno*

Avea は直接法半過去 1 人称単数と 3 人称単数の二つの形をあらわす。現在ならば *avevo*, *aveva* となるところである。

Pensato ancora avea di domandarla (4-69)

(それからまた、ぼくは考えたよ、)

tosto a dormir, dicendo ch'ella avea (3-26)

(皆は、急いで就寝するようにと、彼女は急かせた。)

なお 3-26 の例では行末に現れている。これは韻をそろえるため処置である。*Aveano* は *avere* の直説法半過去 3 人称複数形である。この形は古形として辞書の活用表に掲載されている。

e come aveano ancora per partito (4-43)

(いかに諸侯一同が、クリセイダの返還についての決断を、)

最後の *avien*, *avieno* は、*avere* の直説法半過去 3 人称複数である。

per bene assai vegghiar avien disire: (3-41)

(その夜が、終わりに近づかぬことを、望んだ。)

sì come fatto avieno il dì primeiro, (7-14)

(そこで、二人は、前の日と同じように、)

C. *aver*

Avere の不定詞。すでに第 3 章 (2) で述べた。

D. *avraggio*

Avere の直説法未来 1 人称単数である。

forse di là miglior fortuna avraggio, (4-122)

(そこで、よりより幸運に、恵まれるだろう。)

この形については例でわかるように行末に用いられているので、明らかに脚韻を合わせるためのものである。次例も動詞は異なるが同じ例である。

tu parli bene, ed io nel pregheraggio. (2-67)

(中々いいことを言うね。彼に、そう、願おう。)

E. avrem

Avere の直説法単純未来 1 人称複数形で **avremo** の -o が落ちた形である。

ché in cio avrem ben buona cautela. (2-142)

(その事についてはね、我々が十分に、慎重な用心をすることは、)
なお **avreme** と -o のついた形も現れている。

F. avria, avrien

Avere の条件法現在 3 人称単数と 3 人称複数形である。Avrien は **avrieno** の -o の落ちた形である。

e chi di me avria mai detto male (6-5)

(誰が、一体私のことを非難がましく言えたことでしょうか。)

carezze avuto avrien tanto valore; (8-6)

(それに匹敵する力はないと。)

G. han

直説法現在 3 人称複数形で、**hanno** と同じである。

han potuto recare? Oh me, fermezza (7-29)

(移すことが可能だったのか。おお、僕に誓った、)

H. ebber

Avere の直説法遠過去 3 人称複数形。Ebbero の -o の落ちた形である。

che l'padre, ed egli e' fratei per la morte
ebber d'Ettòr, nel cui sovrano ardire (8-1)

(エットーレの死により、父親、彼、他の兄弟達が、心に抱いていたものだ。)

I. 補語人称代名詞がついたもの

Avere については **hatti, hol, hollo, hotti** の形が現れる。それぞれ **ti+ha, lo+ho, ti+ho** である。

cred' io assai, ed hollo bene inteso. (6-29)

(直ぐ信じられますし、十分よく、お伺い致しました。)

— Hotti io in braccio, o sogno, o sei tu desso? — (3-34)

(「抱いているの夢それとも本当のあなたなの」)

(2) Essere

A. *esser, siam*

不定詞と直説法現在 1 人称複数形の語尾の -e が落ちた形である。

poter per cotal donna esser perduto, (1-35)
(これ程の御婦人では、徒労になることは有りえぬ、)

Noi siam venuti al porto, il qual cercando (9-3)
(我々は、遂に、探し求めていた港に到着したのだ。)

B. *eran, fu', fur, furo, furon*

Eran は直説法半過去 3 人称複数形で、語尾 -o が脱落した形である。*Fu'* は直説法遠過去 1 人称単数形、*fur, furo, furon* は 3 人称複数形である。

ch'io non fu' mai d'amor dentro alle reti (3-61)
(僕は、これまで、今のように、恋の罫の中に、居たことがないんだよ。)

fur tra' baron, di quel che bisognava (4-17)
(諸侯の間では、起きた事態に、)

Grandi furo i lamenti e 'l rammarchio, (8-25)
(悲嘆と、それに、悔恨とは、絶大だった。)

tutto bagnato avea; né furon vote (4-12)
(がっちりした胸とが、ずぶ濡れに濡れたのだ。)

C. *fia*

Essere の直説法現在単純未来 3 人称単数形である。これも行末に現れている。

solamentei vorrei: questo mi fia (2-31)
(その事が可能なら、それが、僕には、)

D. *fien, fieno*

Fieno の -o を省略したのが *fien* である。直接法未来 3 人称複数の形である。

né prima mi fien date licite ore (3-50)
(この最高の時間が、あたしの上に授けられることを心から望みます。)

mi fieno ch'or non son; l'uom dee guardare (6-31)

(男性というものは、考えねばなりませんわ、)

D. *sie, sii, sien, sian*

Sie, sii 接続法現在 2 人称単数形, *sien, sian* は接続法現在 3 人称複数形である。
これらの例のうち *sii* が行末に使われている。

Che tu sie di real sangue disceso (6-29)
(あなたが、王家の血筋とは、)

tanto di grazia ch'ascoltata sii, (9-8)
(大いに慈悲を授けて、そなたが、よく耳を傾けられるように、)

che mi sia cara, e benché sien fregiate. (2-122)
(その上、それは、涙の光で飾られており、)

s'e miei piacer da Dio mi sian concessi (2-52)
(もし神が、僕に、喜びを、許し給うものなら、)

E. 補語人称代名詞がついたもの

Essermi, fieti, sonmi, sonne の形がある。それぞれ *essere+mi, fie+ti, son+mi, sono+ne* である。

O el m'ucciderà, e fieti caro, (8-17)
(それとも、彼が僕を殺せば、望ましいでしょう。)

第 6 章 結論

今回の調査で、現代イタリア語の知識だけでは理解できない動詞の活用形について明らかにできた。Appendix には *Filostrato* に出現する他の動詞の活用形が載せてある。今回の調査から導かれた結論を述べておく。

(1) 作品は韻文のため、その制約を当然受ける。語中音消失はその典型である。動詞を脚韻語として使用すると、韻をそろえるため、独自の語尾変化を詩人は考えている。下の表の直説法未来の *-aggio* はボッカッチョ独自のものである。なお Appendix に挙げた動詞で行末に現れた例は◎を付しておいた。

(3) 現代語にない *Avere, Essere* の活用形をまとめておく。

Avere

形	活用形
han	直説法現在 3 人称複数形
abbiam	直説法現在 1 人称複数形および接続法現在 1 人称複数形
avea	直説法半過去 1 人称単数形および 3 人称単数形
avien, avieno	直説法半過去 3 人称複数形
aveano	直説法半過去 3 人称複数形
ebber	直説法遠過去 3 人称複数形
avraggio	直説法単純未来 1 人称単数形
avrem	直説法単純未来 1 人称複数形
avria	条件法現在 3 人称単数形
avrien	条件法現在 3 人称複数形

Essere

形	活用
siam	直説法現在 1 人称複数形
fu'	直説法遠過去 1 人称単数形
fur, furo, furon	直説法遠過去 3 人称複数形
eran	直説法半過去 3 人称複数形
fia	直説法単純未来 3 人称単数形
fien, fieno	直説法単純未来 3 人称複数形
sie, sii	接続法現在 2 人称単数形
sien, sian	接続法現在 3 人称複数形

注

1. 坂本鉄男. 『現代イタリア語文法』白水社, 1989. 202 頁。
2. 原文および訳文は参考文献の *Vittore Branca* (1990) ならびに岡三郎 (2004) から引用した。

参考文献

- 秋山余思 「神曲」の脚韻に於ける語彙. 『イタリア学界誌』第 13 号, pp.80-85, 1964。
- Boccaccio, Giovanni. *Caccia di Diana Filostrato a cura di Vittore Branca*. Milano: Arnold Mondadori Editore, 1990.
- Boccaccio, Giovanni. *Filostrato a cura di Luigi Surdich*. Italy: Mursia, 1990.
- Boccaccio, Giovanni. *Il Filostrato*. Italina text edited by Vincenzo Pernicone translated with an introduction by Robert P. apRoberts and Anna Bruni Seldis. New York & London: Garland Publishing, Inc., 1986.
- Ferdeghini, Marina and Paola Niggi. *Les Verbes Italiens*. Paris: Le Robert & Nathan, 1998.
- 古浦敏生 「ダンテ『神曲』における動詞研究—付録『神曲』に現れる不規則変化動詞・動詞難語句辞典—」
 広島大学文学部紀要第 59 巻特輯号 1, 1999。
- 岡三郎 『フィロストラト』国文社, 2004。
- 坂本鉄男 『現代イタリア語文法』白水社, 1989。
- ジョゼッペ・パトータ 『イタリア語の起源 歴史文法入門』岩倉具忠監修 橋本勝男訳 京都大学出版会,

2007。

Lepschy, Anna Laura and Giulio Lepschy. *The Italian Language Today*. 2nd ed. London and New York: Routledge, 1994.

Nishimura, Masahito. *A Concordance to Filostrato* edited by Masahito Nishimura. Programmed by Katsutoshi Nakamura. Grand-in-Aid for General Scientific Research (C). 1996.

_____, *A Rhyme Concordance to Il Filostrato* edited by Masahito Nishimura. Programmed by Masaru Tsuda. Grand-in-Aid for General Scientific Research (C). 1997.

Appendix

Il Filostrato における不規則変化動詞。数字は部 (parte) とスタンザを表す。なお省略形は次の通りである。脚韻語として用いられることがある動詞には◎をつけた。

直：直説法 接：接続法 命：命令法 半：半過去 遠：遠過去 未：単純未来
現：現在 数字：人称 単, 複：単数および複数

[A]

abbi (1-14)	avere 接・現・2・単
abbiam (4-103)	avere 直・現・1・複
abbiam (7-49)	avere 接・現・1・複
abbino (7-56)	avere 接・現・3・単
acceser (1-40)	accesere 直・遠・3・複
aggia (2-69)	avere 接・現・3・単
aggi (3-16)	avere 接・現・2・単
◎ aggio (3-61)	avere 直・現・1・単
andar (4-156)	andare 不定詞
andavan (1-16)	andare 直・半・3・単
andiamcene (4-144)	andiamo+ce+ne 命・1・複
andianne (5-8)	andiamo+ne
annoveriam (7-13)	annoveriare 直・現・1・複
◎ apristi (4-39)	aprire 直・遠・2・単
ardea (2-114)	ardere 直・半・3・単
aspettiam (5-46)	aspettare 直・現・複・1
atare (2-9)	aiutare と同じ。不定詞
avea (4-69)	avere 直・半・1・単
avea (1-8)	avere 直・半・3・単
avien (3-41)	avere 直・半・3・複
avieno (7-14)	avere 直・半・3・複
◎ avraggio (4-122)	avere 直・未・1・単
avrem	avere 直・未・1・複
avria (6-5)	avere 条・現・3・単
avrien (8-6)	avere 条・現・3・複
avvien (1-6)	avvenire 直・現・3・単

[B]

bascianronsi (3-29)
basciolo (2-81)
bevea (7-19)
bevean (4-115)
◎ biastemiava (3-70)

basciarono+si basciare 直・遠・3・複
basciò+lo 直・遠・3・単
bere 直・半・3・単
bere 直・半・3・複
biastemare 直・半・3・単

[C]

caggia (5-27)
chidea (7-6)
colgon (2-135)
com'apparve (7-4)
combatteraggio (7-81)
combatterem (7-45)
◎ commossi (7-79)
◎ convene (2-5)
convien (2-75)
◎ corr'io (7-34)
cre'(4-49)
◎ credea (3-68)
◎ crederia (2-27)
crederia (4-141)
credetter (7-83)
credien (8-1)
crescon (4-70)

cadere 直・現・1・単
chiedere 直・半・3・単
colgere 直・現・3・複
come+apparve 直・遠・単・3
combattere 直・未・単・1
combattere 直・未・複・1
commuovere の過去分詞。commosso となるべき。
convenire 直・現・3・単
convenire 直・現・3・単
correre 直・現・1・単
credere 直・現・2・単
credere 直・半・1・単
credere 接・現・1・単
credere 接・現・3・単
credere 直・遠・3・複
credere 直・半・3・単
crscere 直・現・3・複

[D]

dea (2-129)
dee (5-29)
deesi (2-131)
deggia (9-7)
deggiano (8-31)
deggio (7-69)
deon (4-147)
dicea (5-58)

dare 接・現・3・単
dovere 直・現・3・単
dee+si 直・現・3・単
dovere 接・現・3・単
dovere 接・現・3・複
dovere 接・現・1・単
dovere 直・現・3・単
dire 直・半・3・単

dicean (4-85)	dire 直・半・3・複
dicesser (5-50)	dire 接・半・3・複
dichi (7-4)	dire 接・現・2・単
dovria (5-65)	dovere 条・現・3・単
duolomi (5-28)	duole+mi dolore 直・現・3・単

[E]

ebber (3-33)	avere 直・遠・3・複
eran (6-1)	essere 直・半・3・複
èmmi (3-60)	è+mi
ètti (5-2)	è+ti

[F]

fe' (4-110)	fare 直・遠・1・単
fer (1-18)	fare 直・遠・3・複
fé (3-27)	fare 直・遠・3・単
fia (2-139)	sarà と同じ。 essere 直・未・3・単
fien (7-65)	essere 直・未・3・複
fieno	essere 直・未・3・複
fo (3-51)	fare 直・現・1・単
fosser (4-127)	esser 接・半・3・複
fostù (4-153)	fosti+tù 直・遠・2・単
fu' (3-61)	essere 直・遠・1・単
fur (4-17)	essere 直・遠・3・複
furo (8-25)	essere 直・遠・3・複
furon (5-46)	essere 直・遠・3・複

[G]

gieno (7-1)	gire 直・半・3・複
ginne (4-22)	gire 直・遠・3・複

[H]

han (7-29)	avere 直・現・3・複
------------	---------------

i'ho (4-112)

mertan (3-58)

miselesi (2-113)

◎ moia (2-3)

moia (2-137)

morrem (7-45)

◎ mostrati (2-30)

◎ mova (7-45)

◎ move (3-74)

◎ movea (1-46)

muoion (2-55)

muovon (2-87)

niegherà (7-94)

◎ niegh (7-93)

paion (4-109)

parea (1-11)

parean (4-28)

parmi (7-56)

parria (4-37)

passan (2-50)

◎ ponno (2-135)

poria (1-49)

portan (2-55)

possi (2-37)

posson (4-166)

potea (3-26)

[I]

io+ho

[M]

mertare 直・現・3・複

mise+le+si

morir 接・現・1・単

morire 接・現・3・単

morire 直・未・1・服

mostrare+ti

muovere 接・現・3・単

muovere 直・現・3・単

muovere 直・半・3・単

morire 直・現・3・複

muovere 直・現・3・複

[N]

negare 直・未・3・単

negarae 接・現・3・単

[P]

paiono と同じ。parere 直・現・3・単

parere 直・半・3・複

parere 直・半・3・複

pare+mi parere 直・現・3・単

parere 条・現・3・単

passare 直・現・3・複

potere 直・現・3・複

potere 条・現・3・単

portare 直・現・3・複

potere 接・現・2・単

potere 直・現・3・複

potere 直・半・3・単

[Q]

quant'è

quanto+è

[R]

ragionerem (4-126)

ragionare 直・未・1・単

◎ richieggió (3-16)

richiedere 直・現・1・単

rompien (3-40)

rompere 直・半・3・単

[S]

◎ s'accendea (1-41)

si+accendea 直・半・3・単

◎ s'accese (6-11)

si+accese 直・遠・3・単

◎ s'accomitaro (4-86)

si+accomitare 直・遠・3・複

◎ s'accrogea (6-13)

si+accrogea 直・半・3・単

◎ s'acquista (5-65)

si+acquista 直・現・3・単

◎ s'affolota (2-86)

si+affolota 直・現・3・単

◎ s'affretti (1-25)

si+affretta 直・現・3・単

◎ s'aggiaccia (2-138)

si+aggiaccia 直・現・3・単

◎ s'argomenta (7-94)

si+argomenta 直・現・3・単

◎ s'attenta (4-68)

si+attenta 直・現・3・単

◎ s'avvisaro (8-26)

si+avvisaro 直・遠・3・複

sappi (2-46)

sapere 接・現・2・単

saria (1-54)

sapere 条・現・3・単

sarien (4-151)

sapere 条・現・3・複

sassene (1-22)

sa+se+ne

◎ scriveraggio (2-95)

scrivere 直・未・1・単

sentia (2-133)

sentire 直・半・3・単

sentiesi (2-115)

sentì+si 直・遠・3・単

siam (6-15)

essere 直・現・1・複

sian (4-50)

essere 接・現・3・複

sie (6-29)

essere 接・現・2・単

sien (4-129)

essere 接・現・3・複

sii (4-75)

essere 命・現・2・単

◎ sii (4-177)

essere 接・現・2・単

soglion (1-20)

solere 直・現・3・複

son (1-56)

essere 直・現・1・複

son (1-21)
sospingean (7-44)

essere 直・現・3・複
sospingere 直・現・3・複

tien (4-135)
tien' (3-78)
tor (2-135)
triemo (3-14)

[T]
tenere 直・現・3・単
tenere 命・現・2・単
torre=togliere 不定詞
tremare 直・現・1・単

val (2-21)
valea (3-53)
veggendo (1-20)
veggia (2-17)
veggiam (2-85)
veggiamo (4-80)
veggio (2-39)
vegna (2-129)
venia (3-22)
vien (8-29)
vien' (3-46)
vo' (1-3)
volea (2-18)
volea (7-20)
vuol (2-37)

[V]
valeと同じ。valere 直・現・3・単
valere 直・半・3・単
vedere ジェルンデイオ
vedere 接・現・1・単
vedere 直・現・1・複
vedere 直・現・1・複
vedere 直・現・1・単
venire 接・現・3・単
venire 直・半・3・単
venire 直・現・3・単
veniere 直・現・2・単
volere 直・現・1・単
volere 直・半・1・単
volere 直・半・3・単
volere 直・現・3・単